

の新規事業の立ち上げや内部統制体制構築のお手伝いをさせて頂いたり、あるいは昨今の金融危機や景気低迷などで表面化してきた社内不祥事等の対応に奔走させて頂いたり、はたまた理不尽な課税処分を受けてしまった方のために税務訴訟で国と戦ったりと日々新鮮な出会いと発見を楽しめる生活を送らせて頂いています。

今から振り返れば、UCLAと法科大学院という二つの大学院で学んだ期間というのは、いずれも自分の人生にとって大きな転機になっていると感じます。仕事や学問の面だけでなく、お付き合いさせていただく人の幅も大きく広がり、多様な価値観に出会う機会も得ることが出来ました。そして、特にUCLAでは、ただ単にあの土地に住んでい

たというだけで、精神的に大きな転換と拡がりを得られたように思います。キャンパスに向かって坂を登っていくときにいつも見上げていた抜けるような青空を思い出すと、今でも心が開放感で満たされるような気がします。UCLA、いいですね。

## 2008年に卒業したばかりの同窓生紹介 田島弘教



初めまして。私は2008年6月にUCLAの人類学部アジア地域研究科を卒業した田島弘教と申します。現在は、昨年10月に入社した「サーチファーム・ジャパン株式会社」というヘッドハンティング会社に勤務



筆者とお母様

いたしております。この度は、社会人経験1年未満の未熟者ではございますが、最近のUCLA事情を皆様方に伝えて欲しいと依頼され、厚かましくも筆を取っている次第でございます。その前に簡単に私の略歴を申し上げますと、日本の高校（福岡県）を卒業後、高校時代に修学旅行で訪れたオーストラリアでの現地学生との交流が印象的で「英語でコミュニケーションを取る楽しさ」を再び味わいたいと思い、アメリカ留学を決意いたしま

した。渡米後の半年間は4年制大学付属の語学学校にて語学力を磨き、その後ロサンゼルス郊外のコミュニティーカレッジに入学。2年間の基礎課程を修了し、留学決意時から憧れであったUCLAに編入いたしました。

UCLAには、勉学に励むのはもちろんのこと、遊びも充実させている学生が多く、毎週様々なイベントやソーシャルネットワーキングの案内などが構内に飛び交っていました。私も己の視野を広げるため積極的に参加をして、その中でも、UCLAJSA（日本人同好会）には卒業までの2年間多くの仲間たちと活動を共にしました。月に1、2回程度、様々な主旨を持ったイベントが役員を中心に企画・開催され、日本人留学生だけでなく「日本」に興味を持つ多国籍の学生たちと交流を深める場として機能しております。

ロサンゼルス近郊の大学を集めて開催した「大学対抗運動会」では、ロサンゼルス灼熱の太陽が降り注ぐ中、皆真っ黒（真っ赤？）になりながら競い合いました。普段は皆勉学に勤しみ、なかなか他校と交流する場が無いゆえ、友達の輪を広げるためにも絶好の機会でした。さらに、学期終了後毎回開催される「お疲れ様パーティー」では、3ヶ月間（Quarter制）の苦しみから解放された喜びから大いに騒ぎ盛り上がりました。また、上記のFun Activityだけでなく、学生の将来に役立つ活動も頻繁に行われ、OBやAndersonの方々を招いての「就職セミナー」は、日本の学生に比べ就職活動に関する情報が少ない留学生にとっ

ては非常に有益な機会であり、多くの学生が参加をいたしました。その効果もあってか、私の同期たち（class of 2008）は、満足しうる企業に内定を頂けたと伺っております。一方で、今年卒業の後輩たち（class of 2009）は、昨年世界経済を直撃した「リーマンショック」のおかげで少々苦戦しているとも耳にしております。しかしながら、難関のUCLAに入学し卒業するという過程で身に付けた不屈の精神と負けん気根性で是非とも夢を掴んでほしいと思っております。

以上簡潔ではございますが最近のUCLA事情の一部をお伝えさせていただきました。



筆者（左）と弟さんとメキシコにて